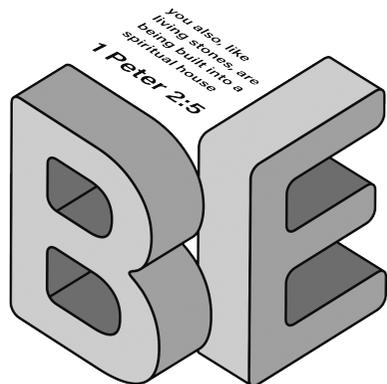


YOUTH MANNA



あなたがた自身も生ける石として霊の家に築き上げられ、神に喜ばれる霊のいけにえをイエス・キリストを通して献げる、聖なる祭司となります。
(ペテロの手紙第一 2章42節)

2025/9/22(月)

エレミヤ 2:1-19

- 主はエルサレムをどのように見ておられるだろうか。(5-8)
- エルサレムは、神様に「あなたはどこにおられるのですか」と聞くことさえしなくなっていた。一方、ダビデはどうだっただろうか。(詩篇69:19-17)
- ★スマホやAIは、とても便利で時に私達の勉強や仕事を助けてくれる。分からないことがあって調べたらすぐに答えが返ってくるよね。でも、神様に祈ったら、場合によっては「祈りの答えを待つ」必要があるし、気づいていないだけで既に祈りが答えられているのかもしれない。私達がいのちの水の泉である水溜である神様(13)に信頼して、祈りの課題を祈り続けていけるように祈ろう！また、今祈っていることについて、私達が祈りの答えを待つ時なのか、既に答えられているのか、じっくり考えてみよう。

2025/9/23(火)

エレミヤ 2:20-37

- 今日の箇所を読んで、罪について考えてみよう。ここにはどのような罪があるだろうか？また、神様はどのような思いを向けておられるだろうか。
- なぜ人は、自分は汚れていない、自分は罪を犯していないと思ってしまうのだろうか。それは君の内にもある思いだろうか？
- 自分で自分を正しいと思うことが、私達を神様から離してしまう。今思い当たる罪があれば、へりくだって神様の前に告白しよう。そしてあなたのために十字架にかかってくださったイエス様を見上げよう。

2025/9/24(水)

エレミヤ 3章

- 神様とイスラエルの関係が夫婦関係にたとえて語られている。ここにある夫婦関係の痛みはどのようなものだろうか。神様はイスラエルの背きにどれほど心を痛められたのだろうか。
- 神様を裏切り続けたイスラエルに対して、神様は「帰れ」と呼びかける。本来赦されるに値しないものが、手を差し伸ばされて救われる。これは私たちにも起こったことではないだろうか。
- 神様は、私たちがどんなに罪深くて、手を差し伸べることをやめないお方だ。私たちの内側を造り変えてくださる神様に、信頼して心を開いて祈ろう。

2025/9/25(木)

エレミヤ 4:1-18

- 5節で『城壁のある町に逃れよう』と言っているけどなにから逃れようとしているかな？6節
- エフライムの山は何を告げているかな？15節
- この箇所は、いつまでも神様に立ち返らないイスラエルに裁きがくだろうとしている箇所だよ。神様は1~3節で主の元に帰ることを勧めている。4~13節では裁きが避けられないこと。14~18節はバビロン軍がもうそこまで来ていることが書かれているよ。神様は『ねたみの神』で燃えるような愛から立ち返らないイスラエルを許さないよ。そんなイスラエルに神様は異教徒の軍隊を用いたんだ。神様との関係の中で一番こわいことは、神様に背を向けることだよ。生活の中で神様に背を向けてるかもしれないことはないかい？あったら神様に話してみよう！

2025/9/26(金)

エレミヤ 4:19-31

- エレミヤが預言者として活躍していた時、すでに北王国はアッシリアに滅ぼされていた。ユダ王は諸外国の軍力で守ってもらおうと働きかけ、貢ぎ物を送ったりしていた。その背景を踏まえて30vを読もう。
- 「踏みにじられた女」がイスラエルを指す比喩とすると、「美しく見せる」とはなんのことだと思おう？
 - そのことは役に立つのかな？無駄なのかな？それはなぜだろう？
 - 本来神様に頼るべきところを諸外国に頼るといふ政策は「無駄」と厳しく言われている。ここから、今自分のやっていることは神様から見て「無駄」になっていないか、一旦考えてみる日にしてみなないかい？

2025/9/27(土)

エレミヤ 5:1-19

- 神様はエレミヤに、『もしも、だれか公正を行う、真実を求める者を見つけたなら、わたしはエルサレムを赦そう。』と言われた。だけど、人々は懲らしめを受けすることも拒み、主に立ち返ることも願わずにいた。
- 懲らしめられることってわたしたちにとっては嫌なことだけど、神様からのそれは正しい道に歩むための愛の導きでもある。だけど、懲らしめを痛いとも思えなくなるとそのことに気づくこともできなくなってしまうんだ。
- それでも神様は諦めず、人々が神様のもとに戻ってくることをずっと願い、待っていてくださる。今君にとって、神様から語られていること、教えられていることはあるかな？私達も神様の導きや懲らしめの真ん中にある愛を受け取ってこう！

2025/9/28(日)

エレミヤ 5:20-31

- イスラエルの民は、「目があっても見ることがなく、耳があっても聞くことがない」という状態でした。
- エレミヤを通して語られる、神のことばを聞くことは出来ず、主を恐れることなく自分勝手に生きていました。イエス様はこの世に来られた意味を「目の見えない者が見えるようになる」ためだと語られました。(ヨハネ9:39)
- 私たちの目は開かれ、イエス様を見ることが出来ているのでしょうか。私たちの耳は神のことばを聞くことが出来ているのでしょうか。
- 静まり、自分自身はどうか、思い巡らしてみよう。